

環境放射線・温排水影響調査結果

鹿児島県では、川内原子力発電所の運転による影響を調べるため、発電所の試運転開始前から、周辺地域の空間放射線量や、周辺で採取した野菜・水等に含まれる放射性物質の測定、温排水の影響を調査しています。

空間放射線量の測定

(令和2年1月～3月)

モニタリングポスト(73局)の空間放射線量と、発電所の放水口ポスト(1局)における海水中の放射線量を、テレメータシステムを用いて常時監視しています。また、発電所周辺の49地点において、3か月間の積算線量の測定を行っています。

これまでの測定値範囲



今回の測定値範囲

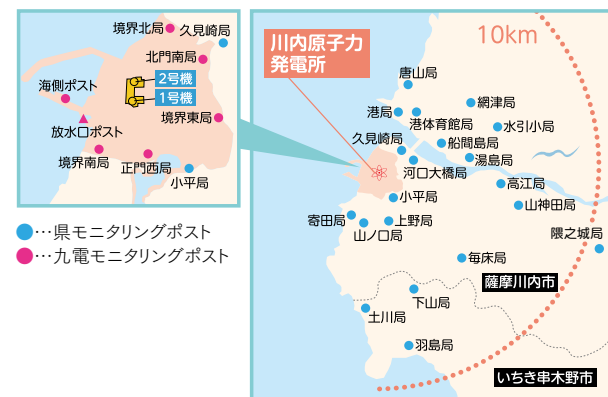
今回の調査結果は、これまでの調査結果と比較し、異常は認められませんでした。

線 量 率 (テレメータによる連続測定)	モニタリングポスト	単位: ナノグレイ/時	20	30	40	50
		北 門 南 局				
		正 門 西 局				
		小 平 局				
		境 界 北 局				
		境 界 東 局				
		境 界 南 局				
		港 局				
		久 見 崎 局				
		上 野 局				
		寄 田 局				
		高 江 局				
		隈 之 城 局				

計 数 率 (連続測定)	単位: シーピーエム	400	500	600	700	800
	放 水 口 ポ ス ト					

3 か 月 間 (91日換算) 積 算 線 量	単位: ミリグレイ	0.10	0.15	0.20
	49 地 点			

川内原子力発電所周辺の測定局



空間放射線量の測定結果については、リアルタイムで県のホームページで公表しています。

鹿児島県 環境放射線監視情報

検索



川内原子力 発電所



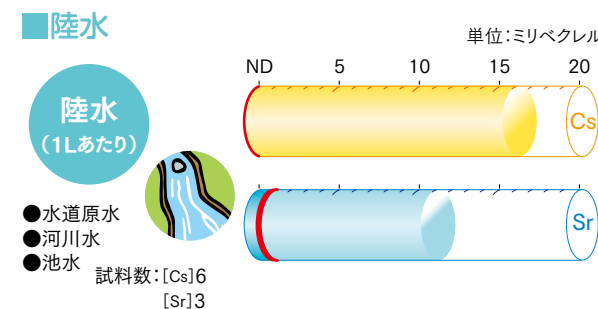
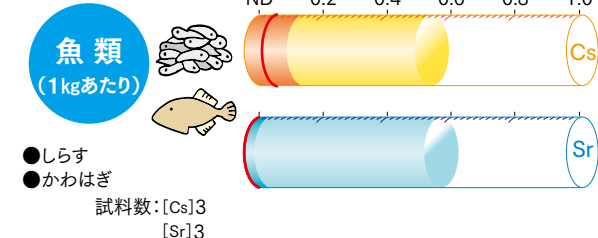
環境試料の 放射能分析

(令和2年1月～3月)

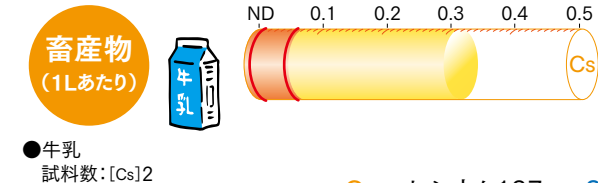
人工の放射性物質であり、環境における蓄積や被ばくの観点から重要なセシウム137、コバルト60、ストロンチウム90、ヨウ素131等について分析しています。今回は海洋試料11試料、陸上試料31試料、合計42試料を対象としています。

微量のセシウム137, ストロンチウム90が検出されていますが、これまでの調査結果と比較し、異常は認められませんでした。

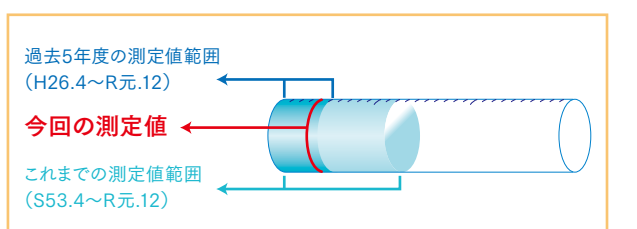
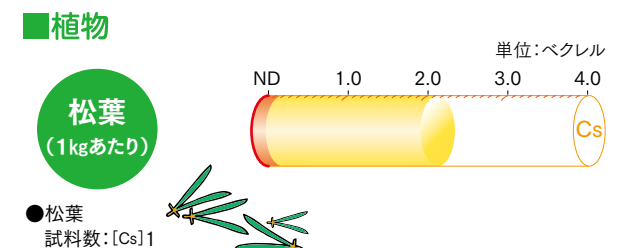
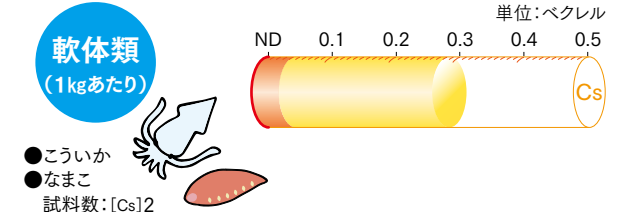
■海産生物



■畜産物



■海産生物



Cs…セシウム137 Sr…ストロンチウム90 ND…検出されなかったことを示します。

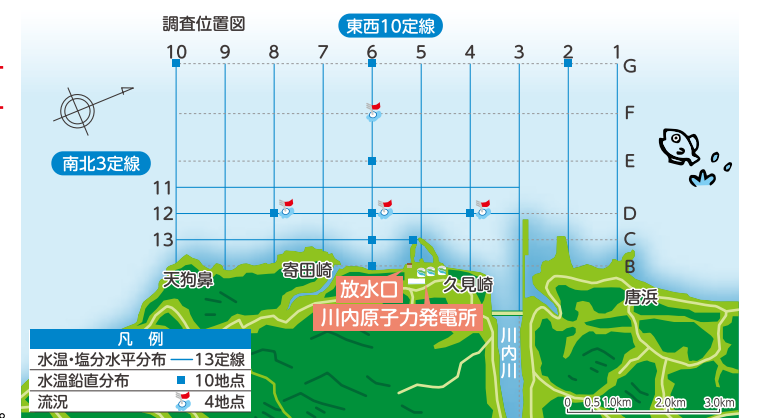
温排水影響 の調査

(令和元年度 冬季)

温排水とは、発電所内で蒸気の冷却に使用した後に排出される海水のことです。この温排水が周辺海域に与える影響を把握するために、温排水影響調査を定期的実施しています。

水温・塩分・流況や周辺海域の主要魚類の漁獲量については、イワシ類(シラス)の漁獲量は減少し、その他は過去の変動の範囲内でした。

水温・塩分調査 水温計を船でひきながら、水深別に水平分布を調査しました。また、海面から海底までの鉛直分布も調査しました(令和2年2月24日)。
流況調査 海中に流速計を設置し、潮流の向きや速さを調査しました(令和2年2月22日～3月8日)。
主要魚類及び漁業実態調査 周辺海域におけるイワシ類(シラス)やマダイ・チダイの漁獲量を調査しました(平成31年1月～令和元年12月)。
※本調査は電源立地地域対策交付金にて実施しています。



今回の調査結果については、県のホームページに掲載しています。

鹿児島県 環境放射線・温排水影響調査結果

検索

